

第2回杉並区消防団運営委員会議事録

委員会：杉並区消防団運営委員会

日時：令和8年8月24日（月） 午前10時05分から11時38分まで

場所：杉並区役所

1 開会

【林田危機管理室長】

本日の第2回杉並区消防団運営委員会、ここから開催させていただきます。進行させていただきます杉並区の危機管理室長の林田と申しますので、よろしくお願いいたします。

本日ご欠席の方、予めご連絡いただいておりますけれども、会を行うにあたっての定足数は満たしてございますので、この会は有効に開会できております。

それでは、会議の開催にあたりまして、当消防団運営委員会委員長の岸本区長よりご挨拶を申し上げます。区長、よろしくお願いいたします。

2 委員長挨拶

【岸本委員長】

皆さん、こんにちは。杉並区長の岸本聡子です。本日はご多忙なところ、杉並区消防団運営委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

今回の諮問事項は、「切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の持続的な強化方策について」であります。7月には熊本で大きな地震があり、首都直下地震の発生が懸念される中、地域の防災力を高めていくことは、区民の皆様の安心安全を守る上で大変重要な課題です。

中でも、消防団の皆様の地域に根ざした活動を通じて防災力を支える大切な仕事の役割は、ますますその期待も含めて大きくなるばかりでございます。

また、災害時に力を発揮する地域の防災力は、日頃からの人とのつながりや地道な取組の積み重ねによって育まれるものです。消防団の皆様には、平時から地域と消防署、区をつなぐ存在としてご尽力をいただいておりますが、その活動しやすい環境づくり、そして地域との連携を深めていくために、私たち区の職員も、その連携のための話し合いに加わることを率直に感謝を申し上げまして、今日の委員会を有意義なものとして進めていきたいと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 議事

【林田危機管理室長】

区長、ありがとうございました。

それでは、本題に入る前に、皆さんの席上に資料配布させていただいております。ホチキス留めでまとめて配布させていただいておりますけれども、念のため資料がちゃんと揃って

るかだけ確認した上で始めたいと思います。

では、ホチキス留めになっている資料、次第が一番頭にあります。資料の1から資料3-4。そして、別紙の1、別紙の2に不足などございませんでしょうか。では、ないようなので、進めさせていただきます。

それで、今日の委員会では、初めて委員となられた方もいらっしゃると思いますが、一言ずつ、委員の皆様、座ったままで結構でございますので、ご挨拶を頂戴できましたらと思います。

では、時計回りに、倉本委員から手短にご挨拶いただければと思います。よろしくお願いいたします。

【倉本委員】

座ったまま恐縮でございます。おはようございます。区議会議員の倉本みかでございます。今回、3年連続委員を務めさせていただいております。新規の方が多い中、議員からは3年連続で当委員会やらせていただいております。よろしくお願いいたします。

熊本と千葉と、あと足立区で震度5、先日夜中に大きな地震がありまして、本当に驚きました。やはり消防団の方々、皆さん活躍していただく場面も多いですし、また今、非常に関心を持って皆様に消防団入っていただける、そういう気運が高まってきているかと思います。しっかりと消防団の現場の声を生かして反映させて、皆様と議論していけたらと思っております。よろしくお願いいたします。

【井口委員】

はい、皆さん、おはようございます。区議会議員の井口えみです。私自身は一昨年、この委員会に所属させていただき、久しぶりに来させていただいてます。

私は、荻窪消防団の第1分団に所属しておりまして、昨年、一昨年と操法大会で選手をやらせていただいて、2年間優勝させていただいております。消防団の活動も日々頑張っておりまして、実際に震災も起きている今、より実効性のある活動をしていただくために、私たちで本日も議論していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【横田地委員】

おはようございます。荻窪防火女性の会の横田地と申します。私のほうは、地域では神明中（学校）の震災救援所、それから町会のほうでは防災会の役員をさせていただいて、消防団の方にはいろいろ助けていただいています。

【高岡委員】

荻窪消防団長の高岡と申します。本日は朝早くからご苦勞様でございます。今話しがあったように、この2、3日なんかぐらついた日が続いておりまして、不安な夜と不安な朝を迎

える日が続いていると思いますけども、特に杉並もこのところで川の増水とか、いろんな意味で不安があったと思いますが、やはり消防署を中心に消防団を含めて杉並の安心と安全を守ろうと頑張っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。以上です。

【早坂委員】

まずもって、遅参いたしましたことにお詫びを申し上げます。荻窪消防署長の早坂でございます。先ほど出てくるとき、一昨日のゲリラ豪雨の関係で共同住宅の地下1階部分に浸水があったということで、消防署への問い合わせがありまして、人命の安全確認等をいたしてまして出発が遅れて、かつ渋滞ということで遅参いたしました。

先ほどゲリラ豪雨と申し上げましたが、高岡団長のおっしゃるとおり、水災もそうですし、震災も最近非常に頻発しておりますので、ますますこれからも消防団の皆さんとの連携を密にして、この街を守っていききたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【松本委員】

皆様、おはようございます。今年の4月に板橋消防署から参りました杉並消防署長の松本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。今後につきましても、杉並消防団と杉並消防署、しっかりと連携を図って、地域の防火防災、また災害対応に万全を期してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

【田原委員】

杉並消防団長の田原でございます。最近、各地で地震が多く発生しておりますので、私たち消防団も首都直下地震という危機感を持ちながら取り組んでまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【大和田委員】

杉並放火防災協会の大和田でございます。私どもも町会の防災訓練では消防団の方、うちのほうは女性なんですけども、積極的に協力いただいて、10月にも2回訓練をする予定になってまして、よろしくお願いいたします。

【澁谷委員】

杉並防火女性の会の澁谷と申します。この会には昨年度より参加させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

【へんみ委員】

皆さん、おはようございます。杉並区議会のへんみでございます。運営委員会には3年ぶりぐらいだと思うんですけども、久々に入らせていただきました。杉並消防団の7分団の

一員でございますけれども、改めて杉並消防団田原団長、また荻窪消防団高岡団長を始めとされる団員の皆様方の日頃のご尽力には、本当に心から敬意を表するものでございます。

先ほど団員の参画の話もありましたけれども、震災・水災が多い中で、より多くの若い方を入れていただくためにも、運営委員会のほうでしっかりと煮詰めて、参加しやすい環境を作っていければと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【斉藤委員】

杉並区議会議員の斉藤りかと申します。消防団の皆様には、日頃より地域の安心安全のために、地道に訓練をしていただいていることに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。今年度はどうぞよろしくお願いいたします。

【林田危機管理室長】

はい。皆様ありがとうございます。新委員の方には委嘱状を席上に配布させていただいておりますので、あとでご確認いただければと思います。

では、議事に入らせていただきます。今回の議事3つございます。今日の進め方は、議事の1つ1つを順に事務局のほうからご説明させていただきますので、議事ごとに質問やいろいろと意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

では、「(1)前回の諮問に対する課題と審議事項等の確認について」入っていきますので、杉並消防署の小原警防課長からご説明のほうお願いいたします。

【小原警防課長】

はい、ご紹介にあずかりました杉並消防署警防課長の小原朗敬（あきひろ）と申します。本日はどうぞよろしくお願いします。

それでは着座にてご説明させていただきます。議事(1)資料1ご覧ください、ページは2ページです。こちらの内容につきましては、前回の諮問に対してどのように進めていくかというものをまとめた表でございます。議員の方と委員の方が代わられたということもありますので、簡潔に内容をご説明させていただきます。

まず諮問事項。「切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の継続的な強化方策について」です。こちら趣旨となりますが、要約しますと、首都直下地震では約 600 件を超える火災が発生する想定がされていることから、切迫する首都直下地震などの大規模災害に備え、効果的な消防団活動の実現に向けて、災害活動能力を継続的に強化していくための方策を諮問するというような内容になります。

このことから大きく課題2つ挙げました。1つ目は、首都直下地震に備えた活動能力を向上させる訓練体制の構築。2つ目は、消防団員の負担軽減と継続的な消防団活動の強化、この2点でございます。

課題1につきましては審議2項目挙げまして、1つ目が基本的な活動技術の習得と実戦

的な訓練による災害対応力の向上。なお、赤文字で記載してあるところでございますが、これはアンケート調査の基文となっております。方向性としまして2つ。大震災時の消火活動能力を主眼とした実戦的な訓練。具体的な方向性の内容につきましては記載のとおりでございます。2つ目が、大震災時の様々な活動に対応できる能力向上を図る実戦的な訓練。ここでは、消防団員が首都直下地震をどう思っているのかを確認するアンケートを実施しております。

審議事項2です。消防団自らが考え、立案して実施する主体的な訓練の推進。具体的な方向性としまして、2点。多様な任務を理解した消防団自ら主体的に実施する訓練。内容につきましては記載のとおりです。2つ目、経験の浅い団員から要望等を組み入れた訓練。ここから新人団員のアンケート調査を実施しております。

課題2をご覧ください。審議事項、こちらも大きく2点。1点目が参加しやすい訓練・行事内容等の改善の推進です。方向性としまして、2点。継続性を踏まえたより効率・効果的な訓練の実施。2点目が、消防団の合同点検の見直し。これによってアンケート調査、訓練の曜日、時間帯、女性や若年層等の多様な条件、世代の要望、こういったものをアンケート調査しております。また、合同点検の内容の見直しについてもアンケート調査を実施しております。

審議事項2。団員確保による活動の効率化等や資機材軽量化による負担の軽減。方向性としまして、大きく2点。学生団員への一括した訓練の入団推進。2点目、資機材の軽量化についての提言。こちらでは、消防隊が扱っておりますガンタイプノズルや50mmホース、こういった資機材をどう思うかというアンケートを実施しております。

以上が、前回、諮問により承認された内容となります。

【林田危機管理室長】

はい、ありがとうございました。今、資料1についてご説明させていただきました。

ご質問、ご意見がございましたら、受けたいと思いますので、お願いいたします。

特によろしいでしょうか。

それでは、次の議題に移らせていただきます。

では、議事の(2)の審議に入らせていただきます。消防団員に対するアンケート結果について、杉並消防署小原警防課長から引き続きご説明お願いいたします。

【小原警防課長】

はい。それでは3ページ、消防団員に対するアンケート結果をご覧ください。資料2となります。1枚めくっていただいて4ページ消防団員に対するアンケート結果。アンケートの対象者数は633名。これは杉並消防団、荻窪消防団、全団員に実施しました。回答率は、回答者数は335名、53%。内訳としまして、性別、年代、勤務年数別、そして階級別は、ご覧のような形で記載のとおりでございます。なお、階級別を見ますと、特徴としまして、副分

団以上の幹部の方の高い回答率が得られております。

それでは5ページ目に移ります。1、首都直下地震について、「首都直下地震に対して切迫感がありますか」という上段の問いでございます。結果は「はい」が272名、81%。「いいえ」が63名、19%。このことから、消防団員の皆さんは高い切迫性を持っているということが確認できました。

下段のグラフをご覧ください。「地震発生時の消防団員として活動する自信はありますか」。この問いに対しまして「いいえ」が208名の62%。「はい」と答えた方が127名の38%。過半数が自信がないという回答となりました。「いいえ」の回答内容を見ていただきますと、①「活動に自信がない」という答えが49名。また、②「訓練が不十分である」87名。これが大多数を占めております。このような回答からも、さらなる実戦的な訓練が必要であるということが言えると思います。

次のページ、6ページ目をご覧ください。次の項目は、首都直下地震に備えた活動能力の向上策についてアンケート調査を実施しました。上段のグラフをご覧ください。「首都直下地震に備えた特段の訓練は必要であるかどうか」という問いでございます。「必要」と答えた方が308名、92%。「必要でない」と答えた方が27名の8%。ほぼ全員の団員が「必要である」と答えています。「必要ない」と答えた方の内訳は記載のとおりです。

下段のグラフをご覧ください。それでは首都直下地震に備えた特段の訓練の項目、こちらについて、複数回答可能で聞きました。一番多かったのは救助訓練の257名、55%となります。続きまして消火訓練の134名、29%。その他の訓練75名、16%という順番になっております。救助訓練を過半数の団員が求めている結果となりました。内訳につきましては、記載のとおりでございます。

3番目に移行します。7ページをご覧ください。行事、訓練等の改善について。「合同点検を実戦的訓練に変更することは賛成か」。この問いに対しまして、「賛成」と答えられた方が288名、91%。「反対」が29名、9%。ほぼ団員の方が「賛成」という結果になりました。

次に下段のグラフをご覧ください。「参加しやすい訓練はどのような訓練か」。この問いに一番多かったのが「短時間の訓練」144名、43%。続きまして「世代に応じた訓練」97名、29%。3番が「勤務地及び居住地から近い場所等での訓練」ということで、94名、28%という結果が得られました。このことは、短時間でやる訓練、効率のいい無駄のない訓練、そういったことを団員が求められているという結果になりました。

次に8ページをご覧ください。上段のグラフ、訓練に参加しやすい曜日について調査いたしました。一番多いのが「土日・祝日」。休日で178名、74%。「平日」と答えられた方が61名、26%。なお、こちらは希望日が複数回答された方や、希望なしの方は除いております。

下段のグラフをご覧ください。訓練に参加しやすい時間帯。先ほど土日・祝日が最も多い状況でしたが、土日・祝日では「午前中」が一番多く215名、71%。そのほかはご覧のとおりです。平日につきましては、「夕方以降」が40名の46%と多い状況でした。このことから、訓練に参加しやすい曜日、これは土日・祝日の休日。そして、午前中が非常に参加しや

すいという要望が多かったということになります。

続きまして9ページ目に移ります。新人団員の希望の訓練を確認しました。入団5年未満の58名に聞いております。一番多かったのが「救助訓練」、こちらが26名32%。続きまして「放水訓練」、20名、25%。3番目が「応急救護訓練」、15名、19%。4番目が「資機材取扱い訓練」、5番目「操法訓練」と続いております。

訓練に参加しやすい時間帯は、やはり土日・祝日の午前中、21人、41%の方が一番多く答えている状況でした。平日につきましては、19名で、夕方以降が一番多い76%という状況になっております。

10ページ目をご覧ください。新人団員の中でも比較的年齢が若い入団5年未満、39歳以下の22名に確認しました。1番が「救助訓練」の9名32%。同じく「放水訓練」の9名、32%。若年層団員は、救助訓練と放水訓練を一番求めているという特徴が見られました。そのほかは、3番として「資機材取扱い訓練」、「応急救護訓練」、次に「操法訓練」の順になっております。

下段をご覧ください。訓練に参加しやすい時間帯は、こちらも土日・祝日の午前中が1番で6名の46%。続いて午後ですが、5名の38%となっておりますので、大きな差はないということが言えると思います。平日につきましては、全員が夕方以降と答えております。

続きまして11ページをご覧ください。新人団員の希望訓練ですが、こちらは入団5年未満の40歳以上、比較的高い年齢の方たちに伺いました。1番が「救助訓練」の17名、33%。2番が「応急救護訓練」の12名、23%。3番が「放水訓練」の11名、21%。「資機材取扱い訓練」、「操法訓練」と続いております。

下段ご覧ください。訓練に参加しやすい時間帯は、土日・祝日で見ますと、こちらも「午前中」が一番多い15名、39%となっており、平日で見ますと「夕方以降」の9名、60%という状況でした。

続きまして、12ページをご覧ください。女性消防団員の入団5年以上、比較的中堅からベテランどころの女性消防団員41名に調査しました。一番求めている訓練は「応急救護訓練」で15名、30%。続きまして「救助訓練」の14名、28%。同じく「資機材取扱い訓練」の14名、28%と、1番、2番、3番の訓練に対しましては、大きな差は見られませんでした。次に「放水訓練」、「操法訓練」と続きます。

下段のグラフをご覧ください。参加しやすい時間帯、土日・祝日、やはり一番多いのが「午前中」、18名の45%。平日につきましては「夕方」の6名が多かったんですが、「午前中」の5名もありまして、こちら大きな差は見られませんでした。日中の午前中は、応急休暇訓練なども考えられると思います。

続きまして13ページをご覧ください。女性消防団員、新人の入団5年未満の方たち40名に聞きました。一番多い訓練したい内容が「応急救護訓練」で、これは圧倒的に多かったという状況です。続きまして「救助訓練」。3番目が「資機材取扱い訓練」。「放水訓練」、「操法訓練」と続きます。

下段をご覧ください。こちらやはり土日・祝日の「午前中」、これが一番多い状況でした。以上、これらの条件を踏まえまして、訓練の立案、計画に、女性消防団員であったり若年層の消防団員であったり、こういった条件に照らし合わせて計画を進めて、効率の良い、やりがいを感じる訓練に結びつけていきたいと考えています。

続きまして、14ページをご覧ください。「消防団効率化における負担軽減について」を確認いたしました。上段のグラフ、「軽量化が必要だと考える資機材はあるか」。「ある」と答えられた方が233名、75%。「ない」が76名、25%。多くの団員が必要性を強く感じている状況です。「ある」の内訳を見てみますと、軽量化の必要な資機材、1番が「可搬ポンプ」。2番「ホース」、3番「ノズル」という順番になっておりますが、1番の「可搬ポンプ」につきましては、ステンレスの軽量化が順次進んでいるような状況です。

ですので、「ホース」と「ノズル」、こちらのほうに注目しております。

下段のグラフをご覧ください。現在、消防隊、東京消防庁で使われている「反動力が大幅に軽減されるガンタイプノズルの配置を希望するか」という問いに対しまして、「はい」が86%、249名答えております。「いいえ」が41名、14%。大多数の団員は配置を望んでいるという結果が得られております。なお、「はい」の249名の内訳について、「ガンタイプノズル」これはネジ式になるんですが、「50mmホースのネジ式でも配置を望むか」という問いに対しまして「はい」が76%、189名（配置希望が）得られていますので、大多数がネジ式でもいいという結果になりました。

ここで、消防団のホース、ノズル、あと、消防隊のガンタイプノズル、50mmホース、これがよく分からないと思われる委員の方もいらっしゃると思いますので、写真図等つけました。15ページをご覧ください。消防団使用の65mmホースと管そうです。現在、65mmホース一本20m空の状態で8kg、水が乗ると20mのホースに65kgほどの重さがかかります。かなり重い状態です。

下段の写真を見てください。こちらは消防団が放水するときの姿勢となります。かなり右腕でしっかりとグリップを持って引き上げて腰につけての状況で放水しますが、反動力という放水しますと後方に引っ張られる力がかかります。その際、1人での長時間による放水が大変困難な状況に陥りますので、2人保持が原則となります。ちなみに反動力は表の250から300ニュートン。大体1人で保持できるのが250以内と言われております。

次のページ、16ページをご覧ください。最後となります。消防隊の使用している50mmホースとガンタイプノズル、こちらは消防団の65mmから50mmに口径を落とす必要がありますので、媒介金具を使います。そして、グリップですね、拳銃のような形になっていますので、通称ガンタイプノズルと言われて握りやすい形状となっております。水が乗ったホースが約40kg。ですので、マイナス25kg、重さが軽減されます。空の状態で5kg。マイナス3kg。1人で保持しやすく、移動もしやすい。一番放水量が多い状況で450mm毎分0出ますが、反動力としましてはかなり軽減される。239となります。以上がアンケート調査の結果となります。

【林田危機管理室長】

はい。ありがとうございました。こういったアンケート調査、消防団を対象としたアンケート調査は初めて取ったということで、今後の様々な取り組みを考える際の基礎データとして活用されるということでございます。

このアンケート結果について、ご質問、ご意見等ございましたら、いただきたいと思います。お願いいたします。

【へんみ委員】

改めまして、アンケートをお取りいただきましてありがとうございます。僕自身もこれは答えさせていただきました。

その中で、これ、みんなで、消防団の訓練のときだったんですけども、操法大会の訓練のときに集まっているところで配られて、そこで書いたりはしてたんですけど、僕はこれ見て思ったのは、訓練の中の、7ページですかね、「実戦的訓練に変更することに賛成か」というところがあるんですけど、反対の理由に「部隊検閲、礼式が重要だから」というのが11にあると思うんですが、この話、まさに出てまして、やはりどうしても訓練をすると、訓練以外の時間というんでしょうか、来賓の皆様方からご挨拶をいただいたりですとか、検閲をして歩いている時間というのがあるという中で、「重要なものとそうでないものがあるよね」という話をして、例えば操法大会ですと表彰をしていただいたりですとか、そういった、またご来賓のご祝辞をいただく中でも、署長ですとか第4方面本部長のご挨拶をいただいたりといったところはあるんですけども、議員団の挨拶が長く多いとか、こういったご意見もあり、非常に、確かに訓練をされている皆さんからすると「そんなに必要なのかな」という意見はありました。

そういった部分も踏まえて、特に先般、区で行った水害の訓練に関しても、議員団が紹介のときだけいたりとか、そういうこともあったものですから、なかなか。はっきり言って、紹介とかそういう、要らないものといったら失礼ですけども、必要のないと判断されるものは極力排除して、スムーズな進行ができるほうが、参加される団員の皆さんにとっての負担も少なくなるかと思えますけれども、改めて、意見としてもありますけれども、質問というような形で、極力、今後そういったことがスムーズに進行できるのかどうかご検討いただければと思いますが、いかがでしょうか。

【小原警防課長】

そうですね。こちらのアンケート調査を踏まえまして、できるだけそういった意見やアンケート調査の少数意見も顧みて、それで今後の訓練のほうに生かしていきたいと思えます。

なお、合同点検に関しましては、これだけの大多数のご意見、変更にいいというご意見をいただきましたので、今年はしっかりと、その基礎となる訓練をやっていききたいと思います。

【へんみ委員】

はい、ありがとうございます。中身については本当に実戦的な訓練を、今回ちょっと先の資料、見させていただきましたが、実戦的にしていただけるということで、これは非常に有用かと思います。後ほどの訓練のところでもまたいろいろ伺わせていただければと思いますが、それ以外の礼式的なものというか、極力排除できるものと判断できるものに関しては、スムーズな進行に努めていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

【林田危機管理室長】

はい、ありがとうございました。
ほかはいかがでしょうか。じゃ、お願いいたします。

【斉藤委員】

よろしくお願いいたします。このアンケートを見させていただいて、この新人団員の希望訓練の、9ページからですかね、女性団員のアンケートになるとまた回答率がすごく多分目線が違うのかなと。順位を見ると違うのをすごく感じました。12ページの「その他の意見」で、「インフラ停止中の対応訓練が必要ではないか」というお声が、ここで初めて出てきているんですけども、多分今本当に地震、熊本地震の見る中で、本当にインフラが停止したときの訓練が、多分すごく、やっぱり女性目線ですごく必要だというふうに感じてるんだなという回答だと思うんですが、これについて率直にすごく必要だと感じられているのか、どうか、ちょっとお聞きしたいんですが、いかがでしょうか。

【山野防災安全係長】

杉並消防署防災安全係長の山野と申します。

インフラ停止中における対応の訓練は、やはり消防団が対応することとして、インフラは範囲ではないと考えております。ただ、女性団員がここでいうところでは、多分、救援所（区内小中学校等での震災救援所訓練）においてそういう活動も入れたらいいんじゃないのかなという意見だと思います。女性団員は特に（震災救援所訓練において）応急救護の普及活動など、そういう活動をどんどんやっておりまして、実際の火を消す消火とはまた別に、救急、応急救護的な要素の普及も取り組んでいるですね。なので、そういう観点から、このような意見が出たと思われます。よろしいでしょうか。

【林田危機管理室長】

はい。ありがとうございました。
ほか、ご意見、ご質問などいかがでしょうか。お願いいたします。

【倉本委員】

前回の3月の会議のときにこれを取るというお話しをされて、全員を対象にするということでしたよね。本当に大変だったと思います。お疲れ様です。

大変だったと思うんですが、非常に重要な現場の声、実際活動されている方の声、たくさん分かることがあって、非常に有効な調査になったかと思うんですけども、いくつか質問させていただきたいのは、「救助訓練」というふうなことを挙げていらっしゃる方が、希望訓練として救助訓練ということなんですが、やっぱりこの救助訓練は、まず普段はやってらっしゃるんでしょうか。どのようにやってらっしゃるかも併せて。

【小原警防課長】

はい。お答えいたします。東京消防庁の震災訓練時、このときは必ず消火訓練と合わせて、救助訓練で倒壊家屋からの救出訓練を行っております。

【山野防災安全係長】

補足なんですけども、要は、消防団に配置されております油圧ジャッキ、あるいは鉄筋を切るツールとかございます。それを活用したそれぞれの持ち上げ、あるいは切断等、訓練をやっているところなんですけども、実際その救助訓練を行うときには、やはり資機材が必要なんです。生き埋めになった想定になる瓦礫とか、そういうところも準備しなきゃいけないので、満足いける救助訓練は実際できていないのが現実です。しかし、言いながらも、そこは我々の課題です。なんとかやっていきたいなと思っております。

今回、今年から始まりました、ハイパーレスキュー隊の視察が入りました。そこで様々な資機材を、車両を見て、皆さんの消防団の意識も高揚しているところですので、また、このアンケートを見て、今後の我々の訓練に生かしたいと思います。

今ははっきり言って私たちもちょっと驚いたのが、「放水訓練」と「救助訓練」が同じ数というところ。改めて震災時には、まず何を最優先しなきゃいけないか、それは、やはり火災対応だと思います。その意識改革も我々が図っていかなきゃいけないのかなというのがこのアンケート調査でよく分かりました。よろしいでしょうか。

【倉本委員】

年に何回ぐらい、その救助訓練を。

【山野防災安全係長】

大がかりな訓練といいますと、やはり庁の震災訓練、あるいは区の総合震災訓練等において、2回か3回くらいですね。あと、各分団によっては、先ほど言いました資機材の点検に合わせて持ち上げるとか、点検を兼ねて「ちょっとこれを持ち上げてみようか」というよう

な訓練を各分団でやっているところが実状でございます。

【倉本委員】

ありがとうございます。よく分かりました。ただ2、3回ということが、やっぱりそのとき参加できなかったりとかで、「もう少しやりたい」というお気持ちがここにアンケートに表れているのかなと思いました。

あとは、もちろん日頃は、大震災ももちろんですが、やっぱり日頃は身近なところで起きた火災対応というのも大切にはなってくると思うんですが、やっぱりそこに消防団の方がやりたいと思っている希望とのちょっと乖離があるのかなという部分が見えたかと思うので、そこはぜひ団員の方々が希望する訓練が充実していくようお願いできたらと思います。

あとは、反動力が軽減されるガンタイプノズルの配置ということなんですけれども、これは配置される方が多いという結果になって、実際に配置していくというふうになると、どこが、誰が予算を組んでつけていく、どういうふうな流れで予算を要求して誰がやっていくのかということと、あと他区の状況というのはどうなのでしょう。杉並では希望して、今はないということですね、これは。ないということでもいいんですね。

【小原警防課長】

配置されてません。

【倉本委員】

されてないですね。そうすると、他区の状況とかはいかがなんでしょうか。

【山野防災安全係長】

実は、このガンタイプノズルについては、いくつかの消防団に配置し、使用上の利便性や団員の負担軽減等の観点から検証を行い、令和2年に検証、さらに令和4年に再検証した結果では、様々な要因から団員の混乱を招き、安全性が欠如されるのではないかな等の理由から導入が見送られております。やはりいったん65mmから50mmの細いホースにすることで、水圧の関係もあります。それと送水圧力の関係から可搬ポンプの操作もちょっと難しくなってくるんですね。そういうところもあるということと、また、それに合わせた訓練を実施する内容も合わせて、先ほど言いましたホースの結合がネジ式になります。今まで消費団の方々は、町野式でカチャッと一発ではめる。それをネジ式にすることによって、事故が多くなるのではという検証結果も出ております。

しかしながら、我々としても、このガンタイプノズルを使っていく上で、すごく反動力も少ないし、軽いし、必ず将来的には導入したほうがいいのではと、ほかの消防団の事務局の方々とも声を合わせて少しずつ声を上げていこうということで、今回もこれを上げさせて

いたところでございます。

極端な例を挙げますと、1 方面、大手町の方の（丸の内）消防団（独自）で購入しているところもあります。要は、65mm 専用のガンタイプを自分らで買って使っているんですね。しかし、このガンタイプノズル、65mm 用となると、7 万円から 8 万円もする高価なもので、そこまで買う予算がない。しかし、一方面のほうの（丸の内）消防団では、自分らで買って使っていると、それは本庁の消防団課も別に容認しているというところでございます。

なので、すぐには採用されることではないですけれども、将来に向かって少しずつ声を上げていきたいなということで、我々のほうも今、アンケート調査にも上げさせていただきました。

【小原警防課長】

さらに、今の補足の情報ですが、ガンタイプノズル、これ検証で、平成 30 年に検証、31 年以降に芝、調布、世田谷、新宿、滝野川、志村、足立、本田で行っております。令和 2 年で検証で蒲田、志村、千住、城東。以降は検証は終えて、そのまま配置にならないで現在まで来ている、そんな状況です。

あえてここで諮問の答申に加えることによって、配置を実現させたいというふうに考えております。以上です。

【倉本委員】

非常に大切なことをお聞きできたと思います。ありがとうございます。

そうすると、消防庁のほうで予算を組んでということなんですよ、やるとしたら。それを上げていこう、声を上げていこうということなんですよ。よく分かりました。

これは、もし配置されても、その場において 65 のままやるのか、50 にノズルを付けてやるのかというのは、その場の現場の判断で選択できるということですよ。

【小原警防課長】

そのとおりでございます。

【倉本委員】

分かりました。このノズルについて、先ほど反動力のお話しもあったんですけど、15 ページと 16 ページで比べてみると、消防署の方々が使っている状態のこの表だと、消防団の 65mm だと毎分 500mm で飛距離が放水距離 30m とあるじゃないですか。消防隊のほうだと、匹敵するのが 450 ですよ。450 で反動力 239。そうですね、確かに低いんだけど、でも有効射程がそうすると 18 で近づいていかなきゃいけないということですよ。

そうすると、消防団の方々、今、飛距離が、重いけれども 30m あって遠くからでもやれるけれども、放水できるけれども、こっちのガンタイプにするともうちょっと近づいていか

なきゃいけないということで、それはそれで少しそれに不安を持ったり、実際のところ、この近づいていかなきゃいけないんだよということをご存知なかったりとか。あとは、それに対して、やっぱりちょっと本業として消火されている消防隊の方がそれを使われるというのはちょっとまた危険性とかいう点では不安があるのかなと、私はこれを見て思ったんですけれども、その点はいかがでしょうか。

【小原警防課長】

はい。飛距離だけ見ますと、確かに近づかなければいけないということになりますが、その火勢の状態を見て使い分ける。65mm もなくすというわけではありません。こちら 65mm から媒介を使って 50mm に落とすというような流れになっておりますので、距離を取らなきゃいけない場合は 65mm のままで活動すればよろしいかと思います。ケースバイケースだと思います。以上です。

【林田危機管理室長】

ありがとうございました。

じゃ、どうぞお願いいたします。

【早坂委員】

今の先生のご指摘は、非常に的を射た話でございまして、この 65mm 用の管その飛距離と放水量とガンタイプノズルの流量と飛距離、ガンタイプノズルの導入が進まない理由の 1 つでもやっぱりあるのかなというところであります。

ガンタイプノズルだと、65mm ホースは、何本延ばせるんでしたっけ。

【小原警防課長】

65mm は 5 本から 7 本だったと思います。

【早坂委員】

それガンタイプノズルの場合でしょう。普通の管そうだったら何本ですか。

【小原警防課長】

普通の管そうだと 15 本。

【早坂委員】

15 本でしょう。送水圧力と、先ほど防災安全係長からありましたけれども、普通の管そうと、普通のノズルとガンタイプノズルでは送る水の水圧が違うんですね。そうすると、そのホースの耐圧とって、あまり上げすぎちゃうとホースが破裂しちゃう。それで 15 本と、

7、8本ぐらいの差が出る。ホース1本20m。そうすると100m以上、伸ばせる距離が違ってきちゃうんですね。

前提とされているのが、消防団の消火活動の大きな目的としているところが地震時の大火災ということで、地震時になりますと、消火栓が使えなくなる可能性がある。そうすると、防火水槽または川から取水、そうなるともっと火事場から遠くなるんですよね、ホース延長が。そうすると、できるだけ長く伸ばせるほうがいい。遠くから大量の水を伸ばせるほうがいい。そういう意味で、今、この65mmのホースと管そのセットというのが必要だということです。

ただ、ガンタイプノズルは使い勝手がいいということで、ずっと試行も含めて検討を進めていて、東京消防庁としては、やりたいこと分かるんだけど、本来目的のところでは予算を要求する上で、東京都が納得できる説明できないのかなというのが私の感想であります。

ただ、いずれにしても、このガンタイプノズルを入れると、先ほど事務局からの説明のとおり、いろいろとあります。なんでこれ町野式でなくネジ式なんでしたっけ。

【小原警防課長】

消防隊は、ネジ式しかないからですかね。

【早坂委員】

丸の内の消防団は入れてるんですね。

【小原警防課長】

丸の内は65mm 町野のガンタイプです。

【早坂委員】

町野式のガンタイプ入れてるんだよね。あるにはあるんですけど、使用目的が、ネジ式というのは、我々プロの消防が建物の中へ入っていくんですよね。そのときに町野式だと、なんかの拍子でバカンと外れちゃって、内部の隊員に危険を及ぼすということで、ネジ式にして外れにくいような形にしてるんです。そんな理由もあって、いろんな要素があって今の状態に至っているということをご理解いただければいいのかなと思います。

もちろんこのガンタイプノズルを入れることによって、いい効果もあるんですけど、ほかにもたくさんやりたい訓練がある中で、いろんなやり方をみんなで教育訓練をしていかなきゃいけないというところもありますので、それを乗り越えるだけの導入の効果というんでしょうか、そんなところを、この運営委員会もそうですし、東京特別区全体で考えていけばいいのかなと思いました。

いずれにしても、委員のおっしゃられる、ご指摘のその30mとか500リッターとか、こういったところも影響してくるんだなというのを、皆さんに分かっていただけると非常

にいいのかなと思いました。

【林田危機管理課長】

ありがとうございました。

ほか、いかがでしょうか。はい。お願いします。

【井口委員】

すみません、ありがとうございます。

今回のアンケート結果で、首都直下地震に対して非常に高い切迫感というのを皆さんお待ちだということが分かったんですけども、実際に最近、地方、熊本であつたり能登であつたりでは地震が起きてあのような被害が出ている中で、首都直下地震というのは今まで経験を皆さんしていないわけですね。

そういった中で、もし東京で発災した場合に、消防団の方々にどこまでの活動を、動きをしてもらうということを想定しているのかということをお伺いしたいのと、やはり、今申し上げた能登や熊本では、消防団の方が消火から救助から避難場所の支援から、いろいろなことをしていたということは報道などでも認識していますが、そういった中で出てきた課題みたいなものもあったと思いますし、そういった課題を今の東京の消防団の訓練にどのように反映しているのかというところをちょっと手短にお伺いしたいなと思いました。

【山野防災安全係長】

もし首都直下型の地震が起きましたら、同時多発に火災が発生することが予想されまして、常時（消防署）の態勢では人員不足となって、対応が困難になるなど、消防力の低下が危惧されます。そこで、そのような状況下で、消防団にまずやっていただきたいのは、主体的に消防団が独自で初期の段階で同時に発生した火災をいかに1つでも、2つでも消していけるかということが、1つの大きな課題でございます。

今、諮問の一番、趣旨のところが、まさしく井口先生のおっしゃるとおり、まず何をするかというところの問いでございます。先程述べた内容に重ねまして、とにかく消防団が主体となって震災現場での消火力を発揮できるような訓練に取り組むということ、それが一番基盤だと考えております。さらに具体的に言えば、消防団の各分団、分団庫、本団庫などが管内に点在しておりますが、そこから可搬ポンプを活用しての、すぐ水を出して消火するという、初期消火能力ですね、そこだと思います。

【小原警防課長】

補足します。杉並区の首都直下型地震が起きると、想定では27件の火災が点在して発生すると言われておりますので、まずこれが集合して大火災にならないようにしなければいけないと。ですので、先ほどもありましたが、まずは一番、そういった消火能力の向上、こ

ういったものをいかに強く認識して訓練に取り組むか。ここが先ほど救助訓練も1番ではあったんですが、ここに考え方をしっかりとシフト、または重く捉えてもらうということをやっていくというのが課題となっております。以上です。

【井口委員】

ありがとうございました。

消防団の皆さんも、アンケートはしたものの、じゃあ実際に自分たちがどういう動きを求められているのか。まずは消火なのか何なのかという部分を、私たちの声はお届けしたけれども、日頃からそれを感じ取って訓練に当たるというのはなかなかまだできてない方も多いんじゃないのかな、新入団員の方も多いところでは、そういうところもあるんじゃないのかなと思いましたし、また、各地域にしっかりと分団がそれぞれありますので、各地域ごとに「ここが危ないんだ」と。「もし起きたらどうなるんだ」という、より実際の発災を想定した訓練であったり、情報共有なども今後取り入れていくとよろしいんではないかなと思ったところでした。ありがとうございます。

【林田危機管理課長】

ありがとうございました。ほかはいかがでしょうか。

それでは次の議題にまいりますので、ちょっとアンケートについてはここで一旦終わりにして、次の議題に移るということでよろしいでしょうか。

それでは次に議事の3番に入らせていただきます。「消防団合同点検」を見直した実践的な訓練概要について」、資料3-1から3-4まで、続けて事務局からまずは説明させていただきますので、お願いいたします。

【山野防災安全係長】

はい。あらためまして、杉並消防署防災安全係長の山野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは17ページ、資料3-1をご覧ください。消防団合同点検を見直した実践的な訓練の概要案についてご説明させていただきます。実施日時が11月8日曜日9時30分から16時30分まで。訓練場所にありますは第三消防方面訓練場東京消防庁消防学校の隣接敷地で実施いたします。

訓練の目的です。大震災に備えた消火活動能力向上のために、個々の消火訓練から分団ごとの訓練および他の分団と連携した総合訓練を実施して、震災時の火災現場における消防団の主体的かつ効果的な活動を実戦することを目的としております。

訓練場の概要です。図面をご覧ください。①②③と示されている訓練棟を火災建物と見立てまして、消火訓練を実施いたします。赤い○の表示が消火栓。①建物左上の柵印が防火水槽であります。消防団の可搬ポンプ車が消火栓または防火水槽に部署いたしまして、そこか

らそれぞれ火災想定となった訓練等にホースを延長しまして、各分団での放水訓練、各分団が連携した総合訓練を実施いたします。

2のタイムスケジュールです。9個分団を午前と午後に分けて、訓練を実施いたします。午前の部は9時30分に集合いたしまして、10時から各分団での放水訓練、ホース延長訓練、10時40分から12時まで総合訓練を3回に分けて実施いたします。午後は13時に集合しまして、午前と同じ訓練を実施予定でございます。

続いて、資料右側をご覧ください。3、消火訓練です。ここでは写真に示しますように、手びろめによるホース延長、ホースバッグ活用のホース延長を行いまして、さらに長距離のホース延長訓練を実施予定でございます。

写真に示しております手びろめホース延長につきましては、今回の訓練で初めて導入するホース延長の手法であります。導入の理由といたしましては、現在の消防団のホース延長の手法は操法大会でよく見られるように、丸く巻いた消防ホースを投げて延長することが主流でございます。

しかしながら、この場合、泥地などの軟弱な地上面、坂道、階段、障害物がある地上面では、丸く巻いた消防ホースを投げたとしても、なかなかスムーズにホースが延長されないのが実状でございます。そこで、消防隊が行っている手びろめによるホース延長を導入することといたしました。

また、併せまして、写真に示してありますように、脇に抱えての手びろめ延長、肩に担いでの手びろめ延長、それぞれに合ったホースを折り曲げた状態にする折島田ホースの作成要領についても訓練を実施してまいります。

次の放水訓練であります。写真に示してありますように、消火栓に直結したスタンドパイプから消防団の可搬ポンプに送水、可搬ポンプで加圧、そしてさらに可搬ポンプからホース延長しての放水訓練。また、消火栓に直結したスタンドパイプから直接ホースを延長しての放水訓練を実施いたします。

最後に総合訓練です。この訓練では、消防団が単独で対応する震災現場をイメージして、その責務と意識の高揚を団員1人1人に根付かせることができる要素があります。このような訓練は今回初めてな上に、訓練の難易度も高いこともありまして、うまくいかない場面が多々あると予想されます。しかし、その課題を1つ1つ抽出しまして、今後の効果的な訓練につなげていきたいと考えております。

訓練の想定です。「2階建ての住宅から出火、隣棟に延焼拡大危険あり」ということで、出場命令によって待機場所からの緊急走行で出場。火災建物直近の消火栓に現場到着。消火栓からの給水措置を行うと共に、指揮者となる分団長または副分団長による火元建物居住者からの情報収集。収集した情報を、団本部、署隊本部への無線による現状報告。さらに、分団長または副分団長の指揮の下で出火建物への放水・消火を行います。

放水・消火要領につきましては、写真に示しますように、火災現場での逃げ遅れ者や消防団員を炎から守る放水要領。屋外からの火元建物への放水要領などの訓練を行いまして、消

防団員個々の消火技術の習得、そして消防団の火災に対する組織力向上につなげてまいります。以上で、杉並消防団の実戦的な訓練の概要案についての説明とさせていただきます。

【島辻防災安全係長】

次に、荻窪消防団事務局、荻窪消防署の防災安全係長からご説明させていただきます。

お手元の資料の18ページの3-2から3-3、3-4、3枚を使ってご説明させていただきます。

お手元の資料の3-2、1つ目ですけれども、こちらに全体像が分かるようにまとめさせていただきます。まずこちらからご説明させていただきます。荻窪消防団につきましては、実戦的な訓練ということを目標に、新たな消防団点検、今年度から杉並消防署、杉並消防団と同じように新たな消防団点検ということで、杉並消防団とは別の内容で動いております。

荻窪消防団につきましては、10月10日土曜日、予備日を17日土曜日、1週間後にしまして、3つの時間帯で動きます。10時から、13時から、15時からの中で、全部で7個分団がありますので、2個分団、2個分団、3個分団が、それぞれの時間の中で指定しまして活動していただきます。

ですので、1日、すべての消防団の分団がこの時間帯すべてにということではありません。拘束時間をできるだけ短くしまして、短時間で集中して対応していただくというものでございます。その時間帯の中で、消防署長の点検として確認をいただくということでございます。

訓練の想定につきましては、通常の震災を想定すると、各分団が非常配備体制の中で分団格納庫もしくは分団本部に参集しているという前提から始まります。資料の「訓練想定」と囲ませていただきました真ん中あたりでございます。団本部からの出場命令を受けまして、分団本部が消防活動を実施するというもので、大きく分けましてアとイとウ、3つを想定しております。

まず、団本部からの出場命令を受ける分団長が各団員に出場を命令する。火災と救助、2つの想定の中で動いていきます。消火班につきましては、防火服を着装して、防火水槽から揚水してホースを延長し、1線を2つに分岐して、2線で建物を包囲するという内容です。

分団長は無線によって包囲の完了と延焼状況を本部に報告する。あくまでもMCA無線を使って無線のやり取りをしながら、分団長もしくは指揮担当者が指揮をするという内容になります。

救助班は、通常よりは可搬ポンプ積載車よりは遅れて到着すると思いますので、遅れて到着した救助班が倒壊建物で救助活動を行う。これは分団長、指揮を執る方から指揮命令を受けて簡易救助器具を活用して救出、その内容を指揮担当者が団本部に無線で報告するというものでございます。こういった流れでございます。

この内容をやるにあたりまして、いきなりこれだけの内容をやるというわけにはできませんので、次の(2)ですけれども、事前教養の座学をこの暑い時期にやっております。その

あと、事前訓練の部分訓練と、全体を流した総合訓練、この3本立てで事前に行います。事前教養につきましては、8月1日から23日、この日曜までですけども、土曜日、日曜日、できるだけ数多く参加しやすいように想定しまして、消防団員290名いますけども、204名の方が、約71%の方が参加していただきました。事前教養を終えました。内容は、後ほど資料で説明いたします。

今後、今週末からですけども、部分訓練を行ってまいります。これは各出張所と、本署も含めまして、分団が参加していただきまして、水利部署、揚水、放水。あと救助資機材の訓練を行います。そのあと、9月の下旬から10月上旬にかけて、総合訓練という内容で行ってまいります。

1枚おめくりいただきまして、資料の3-2、カラーの横になってるところでございます。これ、教養のときにお配りしているものです。「新たな消防団点検とは何ぞや」というところから始まりまして、「実戦的な訓練を行ないます」という内容のものを参加されましたすべての団員にご説明しております。

その中で、消防団員ハンドブックとか、そういう資料を基本に、出場から現場に到着して引き揚げていくまでの流れ、これを細かく説明させていただきまして、「それぞれの活動、こういうところを注意する必要があります」を事前にご説明させていただいております。

この事前教養がありましたあとに、資料の3枚目ですけども、これから行う総合訓練の内容と当日の内容でございます。荻窪消防団は、水槽から水を取って放水するというのはとても練度があつて熟練度があるんですけども、実際の防火水槽からの用水というのはあまり経験がないということが分かりました。

この実戦的な訓練ということで、10月10日当日を想定しているのが、このイメージでございます。消防署に防火水槽がございます。防火水槽から実際に水を取ります。あくまでもそれぞれの分団本部に参集しているという前提から、命令を受けて出場し、この防火水槽から水を取る。水を取ったあと、65mmホースを伸ばして65mmホースが2本分岐します。図面の真ん中あたりです。2つに分岐します。

右の上のほうに訓練棟というのがございます。その訓練棟をホースで2ヵ所から、2方向から見えるように囲む、包囲するということです。訓練棟に対して放水、そのあと、遅れて到着する救助班が、この上のほうにあります救助の場所を想定するところから、簡易救助器具を用いまして実際に救助するという、こういう流れでございます。

この中で、先ほど一番最初にお話しさせていただきましたが、指揮を執る指揮者、分団長もしくはその近い方になると思いますけども、無線で団本部とやり取りを行い、実際の、できるだけ震災を想定した活動に近いものを想定した訓練を行い、これを最終的に消防署長が確認してということになります。

【林田危機管理課長】

ありがとうございました。消防団合同点検などの見直しについては、今ご説明させていた

できました。

このことにつきまして、ご意見、ご質問ございましたら、受けたいと思います。いかがでしょうか。

【へんみ委員】

質問というより意見ということで申し上げさせていただきますけれども、改めまして、今回、合同点検から見直しを図られて、それぞれの消防団で、コンパクトでより実戦的な訓練を行うためにこうした訓練を想定されたのかなということは拝察をいたしました。

まず杉並消防団さんのほうから行きますけれども、杉並消防団においては、法輪閣でいつも設営をしたりしていただくことがあったかと思いますが、今回はそうではなくて、消防学校の大規模な訓練場を使って本格的な訓練をされるということで、実戦的だとは思いますが、一方でやはり距離の問題が出てくると思います。区内にあった訓練施設というか、法輪閣をお借りしての訓練から、初台まで行くとなると、距離的な問題ですとか、時間的な拘束も増えるかと思しますので、これは改めて訓練が終わったあと、団員の意見ということになるのかもしれませんが、聴取をした上で、やはり参加人数が減ってしまっただけは元も子もないのかなという気もいたしますので、どちらがより効率的なのかというのは総合的にご判断を将来的にしていいただければと思います。

荻窪消防団さんのほうで言うと、今までは本チャン1回こっきりだったのが、事前訓練も含めて、計4回になるんですかね、出動する機会があると思いますので。そうした部分も含めて、次年度以降の、今回は試験的な試みということもありますので、総括をしていただいて、やはり「4回はしんどいよ」という意見もあるのかもしれませんが、「事前訓練、事前にやった上で臨むことが重要だった」というようなご意見もあろうかと思いますが、その辺は総括をしていただければと思います。

ごめんなさい、1点だけちょっとお聞きをしたいんですけれども、やはり合同点検で言うと、杉並消防団、荻窪消防団、両消防団間の連携を深めるという意味合いもあったかと思いますが、そういう意味で言うと、今回は個別にやられるということもあるので、両消防団間の連携、例えば今日は両消防団長いらしていただけますけれども、富士見ヶ丘みたいに西側に行けば荻窪消防団第7分団、東側の土地は杉並消防団第9分団みたいな土地もあるので、そういった部分での消防団間の連携は、今後はどのように訓練として深めていくのか、その辺のことをお聞かせいただければと思います。

【山野防災安全係長】

まず、荻窪消防団と杉並消防団の連携というところで、まずは今回新しい訓練をやることと合わせて、うちは独自の震災能力をもう1回最初から作り出そうと。その中でも今報告させていただきました手びろめによるホース延長、このホース延長技術を身につければ、私自身は長距離の延長ホース能力、ホース延長する能力が高まってくると思うんですね。その技

術を使った上で、さらに荻窪さんと連携した長距離延長訓練、そしてそこからの、先ほども話しが出ましたが、震災現場になると長距離延長になります。それを想定した連携訓練を将来やりたいなと私は考えております。よろしいでしょうか。

【へんみ委員】

はい。ありがとうございます。よろしくお願いします。

【林田危機管理課長】

はい、ありがとうございました。ほかはいかがでしょうか。

【岸田委員長】

団長、もしよかったら。

【高岡委員】

すみません。点検という問題に関しては、やはり消防団、団員1人1人を検査するという事じゃないですか、点検するという意味なので。本当は、今までどおりの点検もいいのかもしれないと思いますが、ただ、先ほども出ましたが、有事の際に動ける、本当に力を持って動ける団員がどれだけいるのかという意味で言うと、やはり皆さんが思っているよりも低いと思います。

ですから、今回せっかくこういうチャンスが来たので、いろいろ皆さんにやってもらって。先ほど杉並の方がおっしゃったように、これが長くずっと続くかどうかという問題は別なんです、いろいろ試行錯誤して、荻窪と杉並と協力しながら、いろいろ団員の育成に励んでいきたいなとは思っているんです。全然連絡を取らないとかという話ではなくて。

ただ、将来的にじゃなくて何年か先に一緒に、杉並区内の安全を守るという意味では、合同点検、いいと思います。ただ、今までのやり方が、あまり合同点検の意味がなかったのかな。もっと意味のある合同点検にしていければなという第一段階の、今、今回のところなんです、先ほどへんみ議員から言われたように、やはりいろんな意味でみんなから不満も出ると思います。終わったあとに「やっぱりこれはこうじゃないの、ああじゃないの」という意見が出ると思うので、これをどんどんまたいい方向に、私たちとしては、杉並の団長含めて変えていきたいなと思っていますので、ぜひ、この消防団の運営委員会で揉んでもらって、どんどん広げていってもらいたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

今、杉並さんも荻窪も、かなり人数増えています。杉並さんは400名のところ、85%。荻窪は350名のところ、今83%ぐらい。なかなかいいラインに両消防団ともいます。皆さん頑張っていると思うので、引き続き皆さんの応援をよろしくお願いいたしますので、そういうところでまとめさせていただきます。ありがとうございます。

【林田危機管理課長】

ありがとうございました。

【田原委員】

やっぱり合同点検のときは荻窪と杉並で、本団結構交流があって、いろいろ意見交換があったんですね。それが今回なくなるというのはちょっと残念に思っていました。

将来的にまた一緒にやりたいと思いますが、今回に限って杉並は、やっぱり高円寺、阿佐ヶ谷の木密地域がありますので、特に消火能力を上げたいと思って、この消防学校で本格的に建物に放水をするということを計画しました。将来的にはこういうのを荻窪さんと一緒に連携しながらやっていきたいと思っておりますので、また、今回これでやってみて、いろいろ改善点があると思っておりますので、それをまた考えながらやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

【林田危機管理課長】

はい。ありがとうございました。今、両団長からもご意見いただいておりますので、こういったことを踏まえてより良いものにしていただければと思います。

それでは、本日の予定の議事は以上となります。今回の諮問についてでございますけれども、令和9年の3月31日までに、今回を含めて3回程度、ご審議をいただくこととなります。その後、都知事へ答申するという流れとなっております。

次回の委員会につきましては、令和8年、今年の12月11日金曜日の1時半開会という予定としてございますので、ご多忙中恐縮でございますが、皆様ご出席方、よろしくお願いいたします。

では、最後に、岸本区長から閉会のご挨拶を申し上げます。では、お願いいたします。

【岸本委員長】

皆様、お疲れ様でした。本日3つの議題をしっかりとここで審議させていただいたこと、本当に、素晴らしい委員会でした。ありがとうございます。

ちょっと私も意見は申し上げなかったのですが、すみませんが、挨拶のところで少し所感を示させてもらいたいと思うんですけども、まず、今日の議題とは別に、杉並区のほうで今、緊急に取り組んでいる、熊本地震、そして千葉の豪雨を受けまして、大雨と地震でございまして、夏の暑さの中で起きたという状況があります。

今までの、例えば備蓄だとか、そういったこと、訓練も、これは私たちのほうですけども、夏と冬ということをそこまで意識的に考えていなく、全体としての訓練だったり備蓄だったりしたんですけども、これからはこの夏の暑さということにもっと十分意識をしてやっていこうというような庁内の話し合いを今しているところです。

それから、帰宅困難者に関して、今回、千葉の線状降水帯が少しずれたら当然、東京でし

たので、この危機感を大変強く持っています。このように短期間、短時間でのことになったときの帰宅困難者が思っている以上に、今まで対応も十分考えているところであったと思っていたんですが、改めて再点検するという、こういったことを今、私たちのほうでは取り組んでいるところです。

で、今回の諮問なんですけれども、今日のお話を聞いて、まず皆様に本当に感謝申し上げたいのは、特に消防団の実際に活躍されて活動されている方もこの中に委員として入ってくださっていることもありまして、その現場の経験意識、特に様々な消防団員の今回アンケート素晴らしかったと思います。これを裏付けるようなお話しが聞けたことは大変ありがたかったと思います。

一方で、特に早坂署長が、技術的それから専門的な見地も詳しくお知らせいただいたことで、さらにこの委員会での知見が深まったことに関しても感謝を申し上げたいと思います。

そして、今回、大きな合同点検の改正と言いますか、かなり大きな、今までの検討を経て、そしてアンケートを経てご提案をいただいておりますことに、大変多くの様々な皆さんのこれまでのご努力に感謝いたします。

今日、委員会で非常によく分かったことは、実戦的な訓練をどう作っていくかということと、その実戦的な訓練というのは、おそらく今回、改革を、新しいことをやってみて、それを重ねながら、変わっていく可能性も含めて、そのときに応じた訓練の進化していく訓練と言いますか、そういったものの取り組みを臨機応変に試行錯誤してやってみるというようなお話もたくさんございまして、こういったことがこれからの訓練の重要なエネルギーになっていくのかなと思いました。

最後に消防団長お2人から、新しい団員がどんどん増えているという中で、これ区役所もそうなんですけれども、こういった方たちの、何のためにやってるのかというモチベーションを維持していくことというのは、もう、これ区役所も全くそのとおりなんですけど、大変そこに意識した訓練の形成というのは重要なんだということを、おそらく皆様が一番現場でお感じになっているのかなということも、今日、お話を聞いてて強く学ばせていただいたところです。

今日のご準備いただいた事務局の方、参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。これからも頑張っていきましょう。

【林田危機管理課長】

はい、ありがとうございました。

それでは本日の消防団運営委員会を閉会させていただきます。

皆様、どうもありがとうございました。